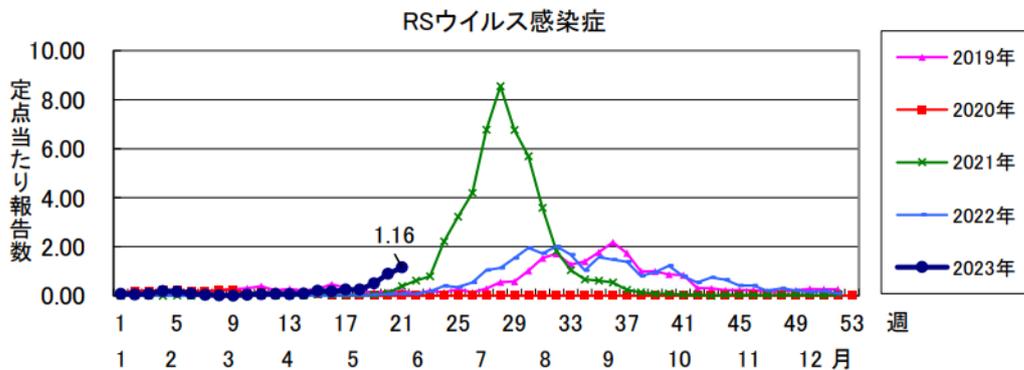


千葉県におけるRSウイルス感染症流行予測とパリビズマブ投与について 2023年～2024年シーズン（第3報）

日本小児科学会は、2019年4月に、最新のエビデンスと、現在の医療状況を反映したコンセンサスに基づく、「日本におけるパリビズマブの使用に関するコンセンサスガイドライン」を公表した。ガイドラインと千葉県内のRSウイルス感染症流行状況を考慮して、千葉県パリビズマブ適正使用ワーキンググループは、2023～2024年シーズンの流行状況を勘案し、パリビズマブ投与について以下を提案する。

1. 2023年5月に入り、全国的にRSV感染症の流行が認められている。
(<https://www.small-baby.jp/rsvirus/trend.html>)。
2. 千葉県内においても、県全体でRSV感染症による患者報告数は148例（定点当たり報告数1.16人）であり、前週からさらに増加（0.90→1.16）した。定点当たり報告数1.0人を超えたのは昨年第40週以来となり、本格的な流行に突入してきている。
3. 今週は県内11保健所管内から患者報告があり、地域別では野田(5.25)、船橋市(2.91)、松戸(1.93)等、前週と同様に県北西部で多くなっている。
4. 周辺都県（一都二県+茨城県）においても全ての都府県で増加、埼玉県は前週時点で1.21人となり、1.0人超となっている。
5. 上記の点を考慮し、2023～2024年シーズンにおいては、2023年6月以降パリビズマブ投与を継続して行うことを提案する。
6. 千葉県内において、パリビズマブ投与は、適応病名に関わらず、1シーズンあたり7回を目安に投与することを本ワーキンググループは提案している。ただし、感染症発生動向調査、患者周囲の流行状況、各地区医師会からの情報、近接都県の流行状況および個々の対象児のリスク等を勘案して、投与回数を柔軟に設定する。



2023年6月5日

日本小児科学会千葉地方会 千葉県パリビズマブ適正使用ワーキンググループ

石和田稔彦 伊東宏明 大曾根義輝 岡田広 門倉圭佑 北澤克彦 佐藤雅彦 戸石悟司
西崎直人 東浩二 菱木はるか 福島裕之 星野直